

ヒラメ

生態的特徴等

【生態】

沖縄を除く日本沿岸から朝鮮半島および樺太に分布。主に水深 100 m 以浅の砂地に生息する。稚魚期にはアミ類を主に捕食するが、成長に伴い強い魚食性を示す。成長が早く、1 歳で全長 30 cm、3 歳で 45 cm 程になり産卵親魚となる(図 1)。約 40 cm までは「ソゲ」と呼ばれる。寿命は雄で 10 年以上、雌で 20 年以上。栽培漁業対象種として H 7 年以降、毎年全長約 10 cm の稚魚が放流されている(R 6 年:60 万尾)。「茨城県のさかな・旬のさかな(秋)」、「プライドフィッシュ」。

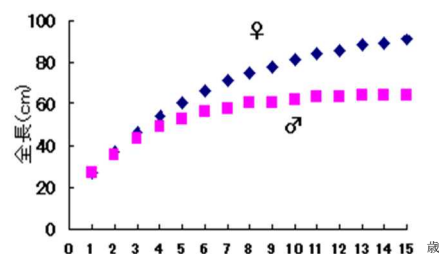
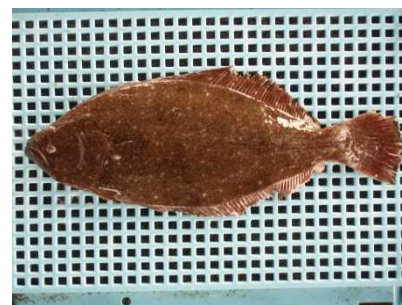


図 1 ヒラメの成長

【漁法と盛漁期】

主に底曳網で漁獲され、固定式刺網(建網)や曳釣りなどによっても漁獲される。

【利用】

刺身や寿司ネタに加え、煮つけやフライ等で食される。茨城沖で漁獲されたものは「常磐もの」として品質が評価されている。

資源水準は中位、動向は増加傾向

(漁獲量) H10 年代には 180~270 トンの水準で推移したが、H23 年以降は 300 トンを超える年がみられるようになり、H27 年には 597 トンを記録した。その後は減少傾向を示し、R 6 年は 166 トンであった(図 2)。

(加入量) H22 年に大規模な卓越年級が発生し、5 歳頃まで良好な漁獲を支えた。その後は平均的な加入が続いていたが、R 4 年級群は加入が多いと推定されている。

(水準と動向) 資源水準は、過去の底曳網(沖底+小底 5 t 以上船)の漁獲量から計算した CPUE (kg/隻・日) の推移から「中位」、動向は直近 5 年間の CPUE の傾向から「増加」とした(図 3)。

水 準



動 向

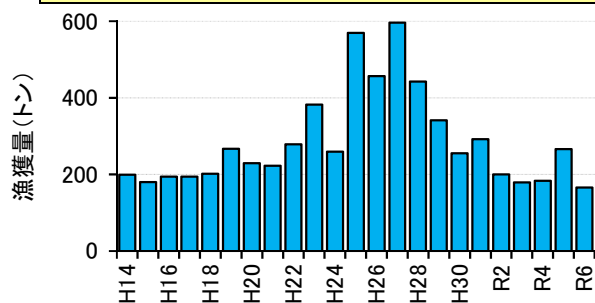


図 2 ヒラメの漁獲量(水試システム, 属地)

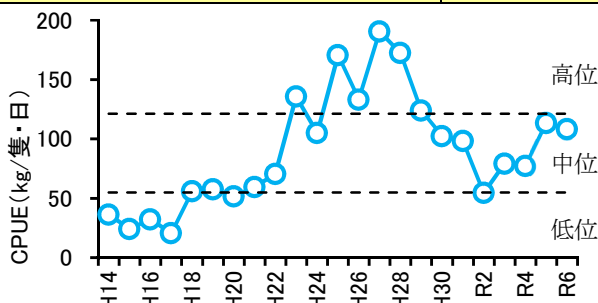


図 3 ヒラメの CPUE (沖底+小底 5 t 以上)

【全国の漁獲動向】

農林水産統計によると、R 4 年における全国の漁獲動向は、1 位:北海道、2 位:宮城、3 位:青森で、茨城は 8 位の漁獲量。